

重点課題2

資源循環の促進

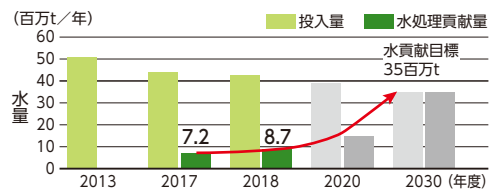
2030年
目標

- (1) 2030年度までに当社グループによる水投入量を30%削減(2013年度比)
- (2) 2030年度までに社会での水処理量35百万トン/年に貢献
- (3) 2030年度までに当社グループによる廃棄物発生量を30%削減(2013年度比)
- (4) 2030年度までに当社グループによる資源投入原単位を30%改善(2013年度比)

富士フィルムグループは、創業当初より、水使用量削減・リサイクル使用、銀等資源の回収再利用、複合機・複写機の循環システム確立など、資源循環に積極的に取り組んでいます。3R(リデュース、リユース、リサイクル)を考慮した製品設計、製造段階でのロス削減、使用済み商品の回収・リユース・リサイクル、廃棄物の有価物化・リサイクル活用など、ライフサイクルでの総合的な取り組みにより、資源の有効利用、廃棄物削減を進めています。

水投入量と水処理貢献量

※2030年度には事業活動での環境負荷(投入量)と同等レベルの社会での貢献を目指す



2018年度
の活動

- 水投入量 15%削減(2013年度比)
- 社会での水処理貢献量 8.7百万トン/年
- 廃棄物発生量 5%増(2013年度比)
- 資源投入原単位 28%改善(2013年度比)
- 富士フィルムグループの水リスクへの取り組みについて、日本地下水学会60周年記念講演会で講演
- 富士フィルム九州の地下水保全活動について、日本地下水学会シンポジウムで講演

▶関連資料・データ: **マネジメント編** P54 資源循環

今後の
活動&目標

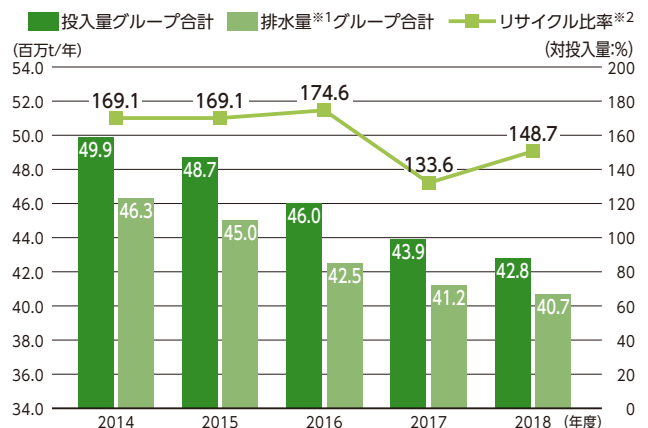
- 各地域・拠点の状況に合わせた着実な削減の取り組みを推進

水リスクへの対応

富士フィルムグループは、創業の事業である映画や写真フィルムの製造において、清浄な水を多く使用していたことから、早くから水投入量の削減、水のリサイクル利用に取り組んできました。近年、国際的な重要課題として水リスクへの関心が高まっていることも鑑み、さらなる水資源の削減・効率使用を進めています。各拠点での継続的な取り組みの結果、2018年度の水投入量は前年比で2.5%減少しました。目標「2030年度までに30%削減(2013年度基準)」に対し、既に15%削減と順調に進んでいます。

水リスクにおいては、問題を抱える地域がさらに拡大する懸念も指摘されているため、2014年より、「水ストレス地域」状況と「水投入量を踏まえた事業影響度」の2指標マトリックスを使った「水リスク評価」の仕組みを構築し、富士フィルムグループの全事業拠点においてリスク評価を継続

水の投入量、リサイクル量及び排水量の推移



※1 事業活動で使用した水、雨水、その他含む ※2 冷却水の使用も含めたリサイクル比率

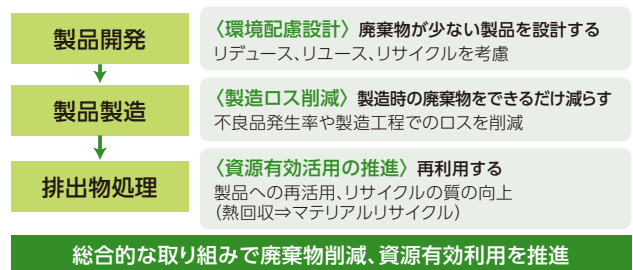
して実施しています。2018年度も、相対的に水リスクが高い拠点を中心に、水管理・削減取り組み状況の確認を行い、当社グループへの影響が低いことを確認しました。一方、製品・サービスによる「社会での水処理への貢献」に関しては、フィルトレーション材料提供によるかん水淡水化や廃水処理、印刷用の無処理CTP版によるお客様先での水使用量削減などを着実に進めています。2018年度の貢献量は8.7百万トンで、「2030年度までに水処理量35百万トンに貢献」という目標に対し25%の進捗となりました。なお、2018年度実績の算定に際し対象を特に貢献度の高い内容に絞り込んだため、2017年度実績も再算定しています。今後も、社会での水処理用途を拡大して行くことで、さらなる製品・サービスを通じた社会での水処理貢献を高めていきます。

富士フィルムグループはこれらの「水リスクや機会」に対する取り組みを通じて、環境プラットフォーム「We Mean Business」の水イニシアチブ(IMPROVE WATER SECURITY)にもコミットしています。

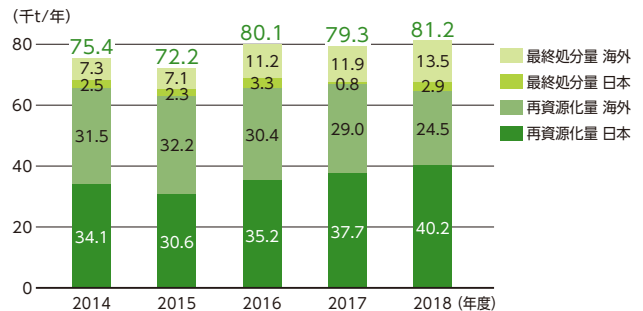
廃棄物削減

富士フィルムグループでは、製造工程だけでなく製品のライフサイクル全体にわたり、資源の有効利用、廃棄物の削減に取り組んでいます。リサイクルや省資源を考慮した製品設計とともに、製造段階での廃棄物については、各地域の社会状況を踏まえた削減活動を進めています。日本では2011年度からグループ全体最適の視点による、廃棄物の有価物化・リサイクルの質向上の活動を、製造拠点だけでなく、オフィスや物流倉庫なども含めた事業全体で取り組んでいます。富士フィルムオプトマテリアルズ吉田工場

富士フィルムグループでの廃棄物削減への取り組み

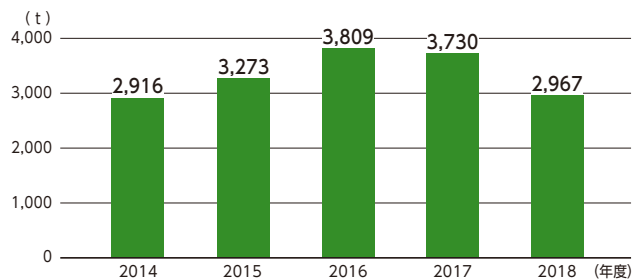


廃棄物発生量^{※1}、再資源化量及び最終処分量^{※2}の推移



※1 廃棄物処理外部委託量とサイト内で単純焼却または単純埋め立てした量
※2 外部委託及びサイト内で単純焼却または単純埋め立てした量

富士ゼロックス 部品リユースによる新規資源投入抑制量[※] (日本国内とアジア・パシフィック地域、中国の合計値)



※製造過程でリユース部品を活用したことによって、新規資源を抑制できた量

では、原材料梱包材の材質変更により、これまで廃棄物となっていた梱包材を有価物として活用することで、廃棄物

TOPICS

重点課題 2

工場排水の前処理による環境負荷軽減 工場排水の前処理プログラムの順守が評価され受賞

写真感光材料・サーマルCTPプレートなどの製造を行うFUJIFILM Manufacturing U.S.A., Inc. (FA)は、5年連続でグリーンウッドメトロポリタン地区の工場排水の前処理プログラムを順守したとして、IPP(産業前処理プログラム)ゴールド賞及びゴールドスター賞を受賞しました。この賞は、地区の事業者に対し、定期的なモニタリングや報告により排水の質を保証・維持する取り組みを評価するもので、同社の継続的な活動が高く評価されました。ゴールドスター賞の受賞以前に

も、10年連続のプログラム順守によって与えられるPalmetto賞を受賞しており、FAはこれで15年連続での受賞となりました。

富士フィルムグループは今後も各工場の排水の監視や前処理などにより、工場排水の適正な管理に努めます。



表彰された排水処理担当メンバー。これまで15年連続でプログラムを順守